

医療法人 光善会 長崎百合野病院

百合野ニュース

- 1 ごあいさつ／瀬良敬祐理事長
- 2 院長就任挨拶／橋本敦郎
- 3 特集「新型コロナウイルスに対するワクチンについて」
- 4 新入職員紹介
- 5 新入職員感想文



長崎百合野病院の理念

人にやさしい、温かい病院
安全で質の高い医療、品格のある病院
地域から信頼され、選ばれる病院

理事長挨拶

ごあいさつ

理事長 瀬良 敬祐



本格的な夏を迎え、暑さが日ごとに増してまいりました。

私、瀬良は2021年3月をもって院長を退任し、新しい院長に橋本敦郎、副院長に安達耕一という新体制になりました。尚、私は理事長として残るとともに、外来診察や手術も従来と変わらずやっていきますので引き続きご協力を宜しく願います。

1年延期された東京オリンピックは、コロナ禍の中での開催となり、世界中より人が集まることによるリスクとの戦いになりました。

いずれにしても、コロナの治療薬が開発されるまでは、まだ数年かかるのではないかと思います。コロナウイルス変異株など私たちにはわかりにくい種が次々出てきていて対応できていないのが現状です。救急医療とコロナ対策の対応を同時にしていけないといけないので大変です

が、力を合わせてこの難局を乗り切っていこうと思っています。

今後とも大学病院をはじめ「病・診」「病・病」など地域連携を大切にまいります。今年もまた20名の新人の方が入職されました。若い力をこの病院に入れていただくことで、より活性化していくものと信じています。より一層の医療の向上と安定を図り、職員一同明るく笑顔で人間性豊かな病院を目指します。今年度も百合野の丘より元気を発信していきますので、皆様のご協力とご支援を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、5月初め～6月にかけて当院で発生したクラスター時には、皆さまから多くの激励、ご指導をいただきました。スタッフ一同深く感謝いたします。

院長挨拶

院長就任挨拶

院長 橋本 敦郎



令和3年4月1日付けで長崎百合野病院新院長を拝命した橋本敦郎です。江崎会長のもと高須賀元院長及び瀬良前院長が築き上げられた整形外科を中心とした医療体制を継続しながら、私の専門分野である内科はもちろんのこと消化器外科を加えた3本柱で病院運営を担っていきたくと考えております。時代は平成から令和に変わり一段と少子高齢化が進むことによって、日本経済が厳しい財政状況に陥って医療費抑制の流れが加速しています。さらにこの悪い流れに追い討ちをかけたのが新型コロナウイルス感染症の世界的な流行であり、その荒波が日本にも一気に押し寄せて国中が一時的に大パニック状態に陥りました。しかし、この新しいウイルスに世界中の医療関係者が立ち向かうことで徐々に解決策が見出されようとしています。そして、このような困難な状況下においても長崎百合野病院はICTが中心となり、全職員が一丸となって新しい感染症に対応しております。また、一段と厳しくなった医療環境下において、私達は初心に帰ることで医療界では当たり前の

事である患者様本位で安心して受診して頂ける医療を提供出来る病院、さらに全職員が働きやすい病院を再構築していきたいと思っております。そのためには全職員が高いプロ意識を持って同じ方向に向かいながら互いに協力し合うチーム作りが大切です。また、長崎大学病院、長崎みなとメディカルセンターはもちろんのこと長崎市医師会及び西彼杵医師会の先生方との横の繋がりも密にしていかなければなりません。医学の進歩によって多様化、専門化した医療に対応するためには病病連携や病診連携は欠かせません。これまでの救急医療を中心とした長崎百合野病院に新しく地域に根ざした病院というエッセンスを加えて、地域の皆様にとって頼り甲斐のある病院造りを私が先頭に立って進めていきます。現代の医療環境は大変厳しい状況ですが私達は皆様のお力をお借りしながら立ち向かうことで必ずや克服できるものと信じております。今まで以上に長崎百合野病院への皆様のご期待に添える様に努力していきます。

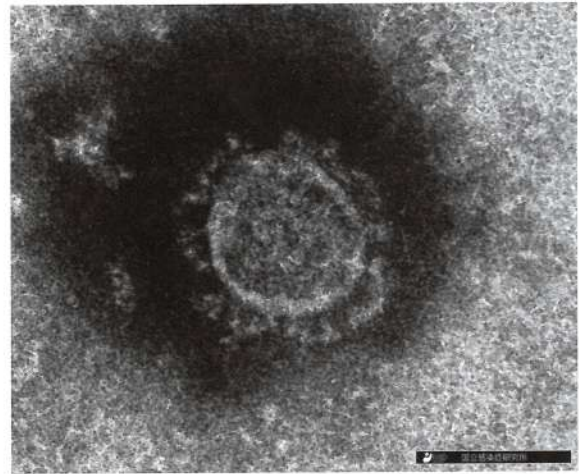
知ってほしい病気の話

新型コロナウイルスに対するワクチンについて

現在も全世界で猛威をふるい、日本でも未だ出口の見えない状況となっている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、正式なウイルス名は、SARS-Cov-2です。もともと「かぜ」のウイルスとして人類の歴史とともに存在していたコロナウイルスが、突然強毒化したものとイメージしていただければと思います。根絶はほぼ無理と思われる、いかにうまく共存していくか（いわゆる「ウィズコロナの時代」）を模索していくのが現実的対応となってきております。そこで現時点の切り札となっているのがワクチン療法です。

ワクチン療法というのは、ヒトの体に特定の病原体に対してあらかじめ免疫（病原体などに対する抵抗力）を人為的につけさせておいて、これにより病原体の感染の成立を抑制したり、感染時の重症化を防いだりする方法です。

皆さんが毎年接種しているインフルエンザのワクチンは、ウイルスを生きた細胞（インフルエンザでは有精卵）の中で増やして、それを様々な方法で弱毒化（体内に入っても発病しないようにする）して作られています。最近になってやっと、新型コロナウイルスでも前述した従来の方法での弱毒化ワクチン



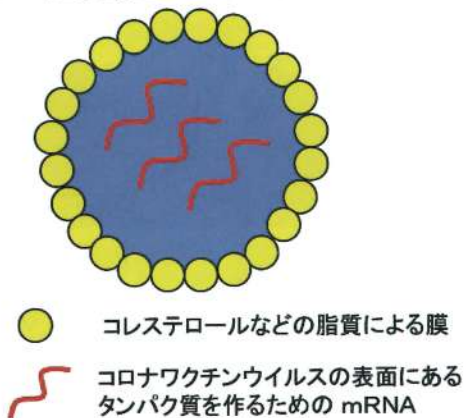
チンが作られるようになったようなのですが、培養などにある程度の時間が必ずかかり、大量に作るためにはかなりの下準備が必要なものではあるので、このような緊急時に「今すぐ」大量にワクチンが作れないのです。

現在日本で接種されているファイザー社とモデルナ社のコロナウイルスワクチンは SARS-Cov-2 内の RNA（を人工的に合成したもの）だけをヒトの体の中に入れて、自分の細胞にそのタンパク質を作らせて、それを抗原として利用し抗体を作らせるというシステムになっています。

ここで懸念されるのが、ウイルスの遺伝情報がヒトの細胞の中に入ることは、遺伝子操作になるのでは？ということかと思えます。そもそも遺伝子とはヒトの細胞の核の中にある DNA の大きな束のことであり、ヒトの体全体構成の設計図の原本です。RNA（正確にはメッセンジャー RNA と言います）はその DNA から必要な一部分だけを設計図としてコピーして取り出したもので、タンパク質などを作り出す細胞内の工場（核の外側にあります）にその設計図を渡す役目の物質です。

最大の特徴は、ヒトの体の中では DNA から

ファイザー社製新型コロナワクチン模式図

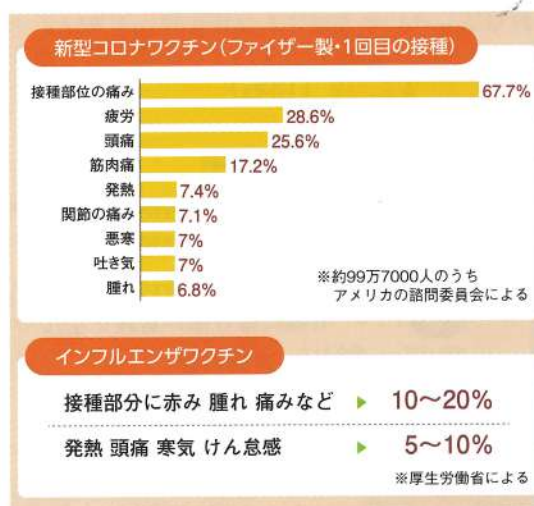


RNAは作られるが、RNAからDNAに戻ることはできないということ。そしてRNAは極めて脆い物質なので、短時間で勝手に壊れていくものなのです。だから、今回のワクチンでウイルスの遺伝子情報は人間の体には組み込まれません。このワクチンがマイナス温度で保管しなければならないのも、実はこの「壊れやすい」というRNAの性質から必要なことなのです。図にワクチンの模式図をお示しますが、壊れやすいRNAを保護している脂質の膜については、実は昔から補助栄養として使われている、点滴で脂質を投与する方法が応用されており、体への安全性もある程度保障されてる技術の応用でもあります。

今回のワクチンについては、有効率が90%以上と報告されています。これはおそらく抗体を確実に作らせるという意味合いだと思います。実際に重症化が防げるとか感染力やスピードが弱まるかについては、おそらく1年以上待たないとはっきりとしたことは言えないとは思いますが、日本と同じ島国で日本に先行して多くの国民が接種をすましたイギリスでは、爆発的に増え続けていた

感染者が現在の日本並みに減ってきたということも聞かれています。

今回のワクチンの副反応についてもいろいろと報告されています。正直なところと言えば、インフルエンザワクチンと同等の安全性かどうかは、まだはっきり断言できないというのが本音です。ただ、個人的な考えにはなりますが、今回のワクチンの一番の目的は、COVID-19をインフルエンザと同等の扱いで済むように、正確にはタミフルなどの抗インフルエンザ薬が出てくる前までのインフルエンザのような対応で済むようにしたいのだと思います。そうして社会の仕組み以前の慣れ親しんだ営みに戻すことが、現状におけるCOVID-19への決着のつけ方ではないかと考えます。



内科 大坪 孝和

新入職員紹介

例年、桜の花が満開で迎える新入職員ですが、今年は、当院の敷地に咲く黄色の菜の花に歓迎されました。入職日当日、新入職員20名はスーツ姿で緊張した様子で出勤しました。それぞれのユニフォームに更衣し入社式・集合研修が始まりました。数名は、同じ学校の人でしたが、ほとんどが初対面です。初日の自己紹介では、お互いを理解し一緒に頑張ろうという熱い眼差しと姿勢を感じました。新入職員の姿勢から先輩職員達も沢山の刺激を受けていることと思います。新入職員を見守りながら職員一丸となって、病院の理念「人にやさしい、温かい病院・安全で質の高い医療、品格のある病院・地域から信頼され、選ばれる病院」に取り組んで参ります。



新入職員感想文

看護部 (13名)



浅瀬 恵

急性期から回復期まで様々な疾患の患者様が入院し、一人ひとりの患者様を在宅（地域）へ戻すために多職種が連携し、リハビリや日常生活の援助を行っていることがわかり、私もその一員となる喜びと看護師としての責任に緊張を感じました。退院までの短い時間の中、患者様に寄り添い看護を学んでいきたいと思えます。



泉 日彩

医療を行う上で、本当に多くの部署・職種が携わっていると改めて実感しました。そして、職種が違ったり部署が違ったりしても、同期で入職した19名のつながりを大切にしたいです。集合教員の期間だけでなく、「頑張ろう」と支えあう同期でいたいです。



内野 大樹

患者への話し方ひとつで、不安を取り除き笑顔にも出来ませんが、不適切な話し方、内容では、患者の不安を大きくしてしまう。看護師の言葉一つ一つは、患者に大きな影響を与えることを学びました。また、看護部長の話の中で、新人看護師が一番患者の「できない」気持ちをわかると話されていました。これから先輩方のサポートを受けながら、患者に寄り添い看護を行っていきたくです。



小川 いづみ

患者だけではなく、患者の家族や携わるすべての人に対しても、自分の言葉や態度に責任を持つこと。

患者を中心に最適なチーム医療の提供が行えるよう、普段の生活の中でも自己のコミュニケーション能力を高めていきたい。



埴 純子

私の目指す看護師像は患者の立場に立ち、その心に寄り添える看護師です。

身体だけでなく心も辛い思いをしている患者の思いを、すべて理解することは難しいが、目指す看護師像に向けて初心を忘れず努力していきたいと思います。

リハビリテーション科 (6名)



牛田 楓花

患者へは笑顔で接することを忘れず、何気ない会話やその表情からもその人の背景、思いを理解できるセラピストになりたいと思います。また、「生涯学習」を常に念頭に置き、今後の医療の変化に対応する力をつけていきたいと思います。



真栄城 蒼

百合野病院は地域に密着した、救急から在宅までの一貫した医療を提供する病院であることを実感しました。今回、回復期病棟に配属が決まり他医療職や患者家族、退院後にかかわる施設職員の方々と密に関わる必要があると感じています。理学療法士が伝えるべきことは何か、それをわかりやすく説明する工夫ができるよう日々努力していきたいと思います。

当院での新型コロナウイルス感染症の学びと対策

看護部長 川嶋 珠美

ゴールデンウィークの終わりを告げる前日、保健所から連絡が入りました。その後、入院患者様及び職員の新型コロナウイルス感染発生により、外来診療や入退院の停止、手術の延期など、患者様、ご家族様、地域の皆様にご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。各方面から頂きましたご支援とご指導に厚く感謝申し上げます。

クラスター発生時は、マスクの適切な着用、手指消毒の徹底など感染予防対策の強化を職員全員で努力し収束することが出来ました。今後も感染予防対策を継続していくことは必要です。職員一同心を引き締め、感染防止対策に取り組む決意を致しております。

今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

